



### ブラックアウトを体験して

平成30年9月6日午前3時7分、北海道胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生。震源に近い厚真町で震度7を観測した北海道胆振東部地震では、41名の方の命が失われました。心よりご冥福をお祈りします。

震源から遠く離れた釧路市でも、日本初の大規模停電（ブラックアウト）という形で被害を受けました。地震当日の様子をここに報告

します。釧路市の震度は4、地震が頻発する北海道東部太平洋側ではそれほど驚くほどの揺れではありません。発生時間は深夜ですし大した被害もなさそうなのでそのまま寝てしまいました。朝になって電化製品すべてが止まっていたので停電に気づきました。

外に出てみると信号がすべて消えており大変危険な状態で、路線バスも運行を停止しています。何とか博物館までたどり着いたものの館内は真っ暗。臨時休館して職員で点検したところ、冷凍庫に保管中の資料が傷まないよう至急対策を講じないといけなことが分かり、ドライアイスを買って来てしのぐことになりました。断水は

していないものの、ポンプが止まっているため水道管に直結している1か所を除き使えません。固定電話は通じず携帯も途切れがち、市役所や電力会社のWebサイトも停止しており、いつ復旧するのか全く情報が入ってきません。二次災害を避けるため待機する他ないという状況のまま夕刻を迎えました。まだ停電中だったため、帰宅途中に身を寄せた避難所のテレビで震源地の被害の様子を目にすることがになりました。

災害とは全く思いがけない形で起きること、そして私たちの生活がいかに電気に依存しているかということ、身をもって実感した1日となりました。（土屋慶丞）

### 土器をみること

「時々、縄文人が私に語りかけてくるんだよ。」

私がまだ学生だった頃、大学の恩師が、土器を手に取り冗談めかしてこう呟いていたことがあります。先生は、土器の破片を整理すると見る見るうちに同じ個体を見つけ出して接合し、遺跡へ出かけると誰よりも早く遺物を探し出すような方でした。そんな先生の姿を拝見するたびに、当時の私はこの方には本当に先史の人の声が聞こえているのではないかと不思議に思ったものです。

先日、かねてより取りかかっていた亀ヶ岡式土器の大型壺3点の復元が終了しました。亀ヶ岡式土器は、道南から東北地方を一円にみられる縄文晩期の土器群で、釧路を含めた道東地域からもまれに出土します。巧みに入り組んだ文

様が描かれ、時には漆が塗られることもある亀ヶ岡式土器は、その優美さからしばしば縄文の美と呼ばれることもあります。

今回、復元した土器は、過去の幣舞遺跡発掘調査で出土したものです。推定ではありますが、その大きさは北海道でみられる亀ヶ岡式土器の中でも最大級のものと考えられます。出土した破片が少ない個体もありましたが、土器の形と文様の全体像を推定し、石こうを用いた復元作業のすえ、なんとか展示できる姿になりました。

私が釧路市埋蔵文化財調査センターに勤務し始めてから8年が経とうとしています。初めての勤務日、東北の土器とは全然違う釧路の土器を目の当たりにして、大いに戸惑い、改めて遠い場所にきたのだなと実感しました。現在、私は業務の一環として当センターに収蔵されている遺物の資料化を行

っています。収蔵資料と向き合う中で、最初は輪郭すらもおぼろげであった釧路の土器たちの顔つきも、少しずつではありますが捉えられるようになってきました。また、釧路には亀ヶ岡式土器以外にも道南や東北の特徴を持つ土器がみられることも資料を通じて分かってきました。

土器をよくみることは、土器を通して当時の人々の声に耳を傾けることなのだと思最近になって考えるようになりました。様々な角度から土器を観察し、実際に触って質感を確かめることで初めて得られる情報も多くあります。楽しそうに亀ヶ岡式土器を眺めながら、「縄文人の声が聞こえる」と言っていた先生のように、私にも縄文人がささやきかけてくれる日がくることを目指し、これからも土器と真摯に向き合っていこうと思います。

（澤田恭平）